

令和 8 年度 比治山大学
現代文化学部・健康栄養学部・短期大学部
一般選抜 B 日程 問題

国 語

受験番号	
氏 名	

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙を含み 1 ページから 11 ページまであります。
また、解答用紙は 1 枚です。試験開始後、すぐに中を確認、印刷
や枚数などに不備と思われる点があれば、手を挙げて監督者に知ら
せなさい。
2. 解答は、すべて、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
3. この問題冊子と解答用紙を持ち出してはいけません。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問中に字数制限がある場合、句読点等も字数に含む)

写真を撮ったり料理を作る主体のみならず、写真撮影と鑑賞に関わる行為も大きく変わった。大山頭が、写真は「見る」ものから「処理」するものになったと述べているように、写真は、撮る・見るものであるだけでなく、SNSの写真においては「加工」「シェア(共有)」「いいね」することが重要となったのだ。この撮影から共有までの一連のソウサ^①は、被写体への態度も変化させた。SNSの写真には、日常の記録や思い出の保存というだけではなく、むしろそれ以上に、ユニークな見た目であることが求められる。よって映える被写体^ハというのは、単に綺麗な色をしているとか、撮影者がおいしそうと思うものというよりは、多くの人の目にとって「面白い」ものということになる。それはSNS写真独特^Aの美学である。佐藤卓己が論じるように、こうした写真は、見栄えを優先させる一方、被写体・素材の事実は軽視されがちである。つまり、「データ素材としてどのような加工もできるデジタル写真は、記録のメディアというより表現のメディア」となったのである。

SNSで共有される食べ物の写真も同様で、それらは加工されたものも多い。あえて白黒にしたり、コントラストを強めたりするなど、見た目のインパクトを強める工夫がなされている。SNSでは、掲載された写真が実際の姿とは異なることが許容され、むしろ期待されてさえている。普段の料理や食卓の風景を撮影したものであっても、非現実的な色にはしないまでも、陰影やコントラストの調整は、おいしそうに見せるために重要な表現手段となる。

ただ、食べ物を食べるよりも見るものとして楽しむことがより重要になると、メディアを通じた食の視覚化は、食べることで、さらには作ることを見えづらくする可能性も高い。例えば、SNSに掲載する写真を撮るために大量に料理を注文し食べ残すなど、罪悪感なく食べ物を無駄にすることにもつながりかねない。二〇一九年八月には、大阪のレストランで人数分以上の料理を注文した客が、大量の料理を前に写真だけ撮り、八割以上の料理を残して帰ったことが問題となった。こうした問題の根幹にあるのは、SNSの写真が、皿に盛られた華やかな姿という食の一部のみを切り取ったものだということだ。その裏には、家畜を育て、漁をし、米や野菜・果物を収穫し、それらのメグミ^②を加工したり、市場に流通させたりという、多くの人々の仕事関わっている。近年、「農場から食卓へ^{ファーム・トゥ・テーブル} (farm to table)」という言葉が注目されているが、生産現場から流通・小売を経て消費者のもとに届くまでの過程は、たとえ「」と

変わっても忘れてはいけない。

なぜSNSなどで共有される写真では、見た目を「盛る」ための加工がなされ、見る人はそれをほぼ当然のように受け入れるのだろうか。そこには、SNSの写真が持つ役割が関係しているように思われる。ネットスーパ^Cーの写真と比べてみよう。先述の通り、ネットスーパ^Cーの写真は、食べ物(商品)を客に認識させるため(cognitive)のものである。そのためバナナは黄色く、トマトは赤い写真が、ある種の記号^⑦として挿入されるのだ。一方、SNSに投稿される写真は、見る者の情動を引き出すため(affective)のものではないだろうか。大盛りの料理や見た目が派手な食べ物などは、いわゆる「映^ばえる」ための写真として、色・見た目が作り出されている。自作料理の写真はどちらかというと「エモさ」を追求したものが多くといえるかもしれない。手作りのケーキや食卓に並べられた数々の料理は、派手さやザンシン^③さというよりも、「おいしそう」とか「こんな料理を作れるなんてすごい」、「自分も作ってみたい」といった、賞賛や羨望^④・憧れ、共感といった感情を見る者に与える。少なくとも、そうした感情を与えることを意図して投稿されることが多い。

もちろん写真に何が写っているかを認識させることは重要ではあるものの、自作の料理であれ、どこかの珍しい見た目の食べ物や大盛りの料理であれ、何かしらの感情(例えば面白い・楽しい・共感するなど)を抱かせることが、何の食べ物であるかということよりも優先される。ネットスーパ^Cーでバナナの欄にトマトの写真が掲載されていては問題だが、SNSの写真では、それがバナナであろうとトマトであろうと究極的にはどちらでもよく、どのように撮られているか、または加工されているかがより重要なのだ。^D

情動を引き出すことが主目的になったことで、SNSでは写真に写った食べ物の色を「自然な」色に寄せる必要がなくなった。そのため、全ての写真ではないにせよ、実物を忠実に再現する以外の方法、つまり多くの人が考える自然な色から逸脱した食べ物の見た目を作ることが可能となったのだ。例えば、ネットスーパ^Cーの写真ではありえないような、ピンク色のバナナや真っ白なトマトがSNSのフィードに流れてくれば、それは映^ばえる写真として、見る人たちの目を引き、「いいね」がたくさんつく可能性が高い。

しかし、ここで重要なのは、ある色・見た目が逸脱であると認識するためには、何がオリジナルかを知っている必要があるということだ。トマトは赤い野菜だという認識がなければ、白いトマトを見て「面白い」「映^ばえる」写真だと感

じることではないだろう。多くの人が、この食べ物の色はこうあるべきだという認識をある程度共有しているからこそ、こうした逸脱が生まれ、見る人の目を引き、食欲を刺激する（または減退させる）のだ。つまり、ネットスーパームSNSの画像も、一九世紀末以降の食べ物の色のコウチク^⑤の上に成り立つものであり、色の標準化や人工的に作られた自然な色という概念をある意味でより強固にするものだともいえる。前者は歴史の中で作られてきた自然な色を記号的に利用し、後者はそこからの逸脱を含めた表現という形で。

（久野愛『視覚化する味覚』による。）

問一 傍線部①～⑤の片仮名は漢字に、漢字はその読みを平仮名に、それぞれ改めなさい。

問二 二重傍線部①・②の文章中での意味として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-------|---|----------------|---|------------------|
| ① 記号 | ア | ある事柄や意味内容を示すもの | イ | ある事柄や意味内容を改変するもの |
| | ウ | ある事柄や意味内容を隠すもの | エ | ある事柄や意味内容を美化するもの |
| ② 忠実に | ア | 真心をこめて | イ | ありのままに |
| | ウ | 責任を感じて | エ | なんとかして |

問三 波線部A「SNS写真独特の美学」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア SNSの写真は、被写体の実際の様子がどうであるかという事実の記録というよりも、それを見る多くの人々に面白いと思わせる表現性を優先し、画像処理が施されるということ。

イ SNSの写真は、画像を見る人々がどう思うかということよりも、撮影者自身がそれを面白いと思うかどうかということを経優先し、データ素材が加工され共有されるということ。

ウ SNSの写真は、撮影者自身の日常を記録することよりも、それを見る人々と思い出を共有することを重視し、互いに「いいね」をすることが求められるということ。

エ SNSの写真は、被写体の事実を記録する媒体であるというよりも、撮影者の個性が重視され、被写体を変形し、非現実的な極彩色に色付けすることが期待されているということ。

問四 波線部B「こうした問題」とあるが、どのような問題か。文章中の語句を用いて四十五字以上五十五字以内で説明しなさい。

問五 空欄 にあてはまる語句として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 農場から流通者へ イ 農場からメーカーへ
ウ 農場から小売店へ エ 農場からスマホへ

問六 波線部C「ネットスーパーの写真と比べてみよう」とあるが、ここで筆者は「ネットスーパーの写真」と「SNSの写真」とを、どのように比較しているか。次の空欄を補って説明を完成させなさい。ただし、1 はそれぞれ十字以上十五字以内で文章中から抜き出して記しなさい。

ネットスーパーの写真は 1 ためのものであるが、SNSの写真は 2 ためのものである。

問七 波線部D「SNSでは写真に写った食べ物の色を『自然な』色に寄せる必要がなくなった」とあるが、その結果

としてどのようなようになったか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「バナナはピンク色で、トマトは白い」と固く信じるSNSを利用する人々と、「バナナは黄色く、トマトは赤い」という通念を持つ人々との間に論争が始まった。

イ 「ピンク色のバナナ」や「白いトマト」の画像がSNSに拡散されたことによって、バナナやトマトの品種改良を積極的に行うという機運が自然に生まれた。

ウ 「バナナは黄色く、トマトは赤い」という常識が崩れ、ネットスーパーでピンクのバナナや白いトマトの写真を掲載し、その販売をするようになった。

エ SNSを通じて、「バナナは黄色く、トマトは赤い」という多くの人の固定観念となっている色以外のバナナやトマトを許容し、面白がるという現象が起きた。

問八 この文章の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア SNSに載せる写真は、撮影者が自分自身の思い出を保存するという要素が全くなく、もっぱら「映える」ことに関心が向けられる。

イ 食べ物「食べるもの」から「見るもの」へと変化したことにより、食の視覚化が進み、調理法の動画を見ながら料理する人が増えた。

ウ 白いトマトの写真を見て「面白い」と感じるためには、トマトは本来「赤い」野菜だということを知っている必要がある。

エ SNSの利用をやめれば、目の前の華やかな料理の背後にある食文化の全体に思いが及び、命の尊さを知ることができる。

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問中に字数制限がある場合、句読点等も字数に含む)

今から五〇年ほど前、イヴァン・イリイチ（一九二六～二〇〇二）という、オーストリア生まれで、後にアメリカやメキシコで活躍した思想家の『脱学校の社会』（一九七一・翻訳は一九七七）が注目されました。七〇年代までにヨーロッパの植民地はどんどん独立し、新しい国家が生まれ、それぞれの国に近代学校制度が定着していきました。イリイチは、その近代学校制度を正面から否定したのです。

学ぶという営みは、学校なしで成立しないわけではありません。学校に行かなくても、親を始め、周囲の大人、年長者に囲まれる中で、人々は生きるのに必要な術^{すべ}を学んでいます。日常生活の中で、経験を通じて必要な知識や技術を体得する、それが本来、人間にとって当たり前の姿です。

（a）今や、子どもを日常生活から切り離し、学校という俗世界から遮断^①された空間に閉じ込めています。日本では、「生きる力」が乏しくなったからと、体験重視の教育をわざわざ外部世界から隔絶された学校に導入するというな状況すら生まれています。

では、学校の何が問題なのでしょう。イリイチの批判は、近代に入り学校が制度化されたことに向かいます。学校制度が公式な形で成立し、政府、ひいては社会のお墨付きを得たことで、人々の学びは学校依存症とでもいうべき状況に陥ります。本来、学習活動に、学校が不可欠な機関ではないはずなのに、です。

ひとたび学校が設立されると、学校で学んだことだけが正統な知で、学校で習っていないことは重要ではない（正統とは言えない）と見なすようになります。

こんなやりとりを耳にすることはありませんか。例えば、知らないことやできないことがあっても、「学校で習っていないから、仕方ないじゃないか」といつて開き直るとか、別の人は「学校でそんなことも教えていないのか」と立腹する人がいたりします。これこそ、学校知が正統な知であること、（b）学校だけが正統な教育機関であることを無意識のうちに認めているテンケイ的な発言です。

正統知は、多くの人に共有されなければなりません。ところが、共有されるには、知自体の内容が体系化され、伝え方も明確にされる必要があります。目で見て盗めとか、曖昧な形では人による受け止め方が異なりすぎ、正統知の共有

は覚束おぼつかなくなります。だから学校における知の伝達は、型にはまったものになりやすいのです。

学校に來ている児童・生徒の側も、このような学校の学びを体得しています。生活に密着した経験知ももちろん必要で、また自然に学習していくものですが、体系立てて授業で取り上げられないので、テストに出ません。(c) 経験知は個人が勝手に、必要に迫られたら、自分なりに学習しますが、このような経験知は学校知の下に位置づけられ軽視されます。正統なものではないからです。

学校で学ぶ知の体系が決まれば、あとはいかに効率的に、効果的に学習させることができるか、これが学校教育の評価を決めます。だから学校や教師は、どうすれば学習効果を上げるか必死に考え、工夫を凝らします。児童・生徒も、教師のそういう努力があることを期待しています。可能であれば、教え方のうまい先生や学校を選びたい、という声も高まるでしょう。

これは一見、望ましいように見えますが、イリイチの問題意識をくみ取ると、そうとは言えません。教師が親切になればなるほど、受け手の児童・生徒はその親切さを当然視し、また頼るようになります。教える側の工夫に依存し、ひたすら学習活動が受け身になってくるのです。

また、やる気の乏しい、自己肯定感の低い児童・生徒をどうするかという問題も、しばしば取り沙汰されます。教える側は、皆に正統な知識を伝えることを使命と考えています。児童・生徒のやる気や能力は様々ですが、全体に知識体系を浸透させようとすると、やる気のない児童・生徒を無視するわけにはいきません。だから勉強しようというやる気を喚起することも、教師の役割になります。

こうなると「やる気」の喚起が自発的なものとは言い難く、周囲のお膳立てで生まれたように見えます。これはイリイチの批判するコンキョ④の一つとなりうるものです。学びたいという欲求は生活の中で自然に育まれるはずなのに、学校は生活と切り離された場なので、人為的に刺激されないと学ぼうとする気が起きない、むしろ自学自習という点では、学校はジャマ⑤な存在なのです。

以上からわかるのは、イリイチの批判する学校化は、近代以降の制度化された教育と、その教育システムを自明視した社会を指します。ですから、イリイチのこの著作を単純な学校廃止論と見なすのは誤りです。彼の著作群をみると、そうした解釈が彼の問題意識を矮小化わいしょうかしていることに気づくでしょう。イリイチの批判の対象は学校にとどまる

のではなく、近代化や産業化により人々が人為的に作られた組織に右往左往し、自分の力で何かを成し遂げる能力が失われている点にあるのです。

(中澤渉『学校の役割ってなんだろう』による。)

問一 傍線部①～⑤の片仮名は漢字に、漢字はその読みを平仮名に、それぞれ改めなさい。

問二 空欄(a) (c) にあてはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ただし同じ記号は一度しか選んではならない。

ア だから イ しかし ウ なぜなら エ あるいは オ たとえば

問三 波線部 A 「イリイチは、その近代学校制度を正面から否定した」とあるが、その批判の内容として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学校制度における知識や技術の伝達は十分でなかったため、人々の「生きる力」は乏しくなった。
イ 学びを学校内に限定することによって、人々が日常生活の中で学びを得る機会が失われてしまった。
ウ 新しい国家に近代学校制度が定着すると、その国の従来の教育のあり方が軽視されるようになった。
エ 学びは学校なしでも成立するのに、近代学校制度によって人々の学びが学校に依存するようになった。

問四 空欄 にあてはまる語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ロジカル イ ストイック ウ アイロニカル エ ノスタルジック

問五 波線部B「このような学校の学び」とあるが、どのような学びか。「体系化」「正統」の二つの語を用いて三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

問六 波線部C「学校や教師は、どうすれば学習効果を上げるか必死に考え、工夫を凝らします」とあるが、その結果どのような問題が生じるのか。文章中の語句を用いて三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問七 波線部D「そうした解釈が彼の問題意識を矮小化している」の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イリイチが単純に学校廃止を主張したと考えると、彼の問題意識を実際よりも限定的に捉えてしまうということ。

イ イリイチが単純に学校制度を否定したと考えると、彼の問題意識をまったく理解できなくなってしまうということ。

ウ イリイチが近代以降の学校制度を批判しただけだと考えると、彼の問題意識が些末さまつなものに感じられるということ。

エ イリイチが近代以降の教育システムを自明視したと考えると、彼の問題意識と矛盾しているように思われるということ。

問八 この文章の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イリイチが提唱した学校制度の批判は、学校制度を自明視している人々にはその意図が理解されず、論争を巻き起こすこともなかった。

イ 学校教育の問題点は教師の意欲不足と関係しており、学校は、親切な教師を望む児童・生徒の声にもっと応えていくべきである。

ウ イリイチの学校制度批判は、近代化や産業化によって、人々が制度への依存を深め自律的行動力を失ったことの批判にも通じている。

エ 生活に密着した経験知は多くの人に共有される必要があるが、学校で扱われないので、人々が日常生活の中で体系立てて共有する必要がある。